

【図21-3 介護者との関係別 本人への介護内容】

		N	徘徊などの行動障害に対する見守り	食事をしたことを忘れるなどの記憶障害への対応	精神症状への対応 幻覚、妄想、うつなどの	昼夜の逆転など見当識障害※への対応	金銭管理の援助	掃除や収納の援助	食事の用意の援助	服薬の援助	入浴などの介助	着替え、食事の介助	外出、通院する時の介助	おむつの交換などの排せつの介助	整髪、歯磨き、爪切り、洗面などの介助	その他	(MA%)
																	無回答
サービス利用者	配偶者	450	2.3	2.6	2.3	2.9	7.3	10.4	13.3	10.5	7.7	9.7	14.5	5.7	7.6	0.9	2.1
	兄弟・姉妹	35	1.6	1.6	3.9	3.1	10.2	12.5	18.8	9.4	6.3	6.3	10.9	4.7	5.5	1.6	3.9
	子ども	587	1.5	3.4	2.5	3.4	10.7	12.6	13.8	10.1	6.8	6.9	13.5	4.4	6.9	1.6	1.7
	子どもの配偶者	107	1.8	4.5	1.0	4.3	9.1	12.6	16.1	10.0	5.5	6.3	14.8	4.1	6.5	1.8	1.6
	その他の親族	17	0.0	7.3	0.0	2.4	17.1	17.1	4.9	4.9	2.4	7.3	17.1	0.0	2.4	12.2	4.9
	友人・知人	16	0.0	2.0	3.9	0.0	3.9	13.7	13.7	9.8	5.9	11.8	11.8	3.9	5.9	3.9	9.8
	ボランティア	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	その他	12	1.8	3.5	5.3	3.5	8.8	10.5	14.0	12.3	3.5	7.0	12.3	5.3	7.0	1.8	3.5
サービス未利用者	配偶者	804	1.6	2.0	1.7	1.7	7.4	12.7	16.0	9.5	7.3	6.6	15.6	3.1	5.8	2.4	6.6
	兄弟・姉妹	39	1.5	2.9	2.2	2.2	13.2	10.3	14.0	10.3	6.6	5.1	14.7	2.9	5.1	2.2	6.8
	子ども	653	0.9	2.9	1.9	2.1	10.3	15.4	17.1	8.9	6.5	3.7	15.9	2.0	5.2	2.5	4.7
	子どもの配偶者	109	0.6	2.6	2.3	3.2	9.5	17.9	21.1	9.0	3.8	3.2	16.2	1.2	4.0	2.9	2.5
	その他の親族	20	0.0	0.0	1.7	1.7	10.2	16.9	27.1	8.5	5.1	3.4	18.6	0.0	0.0	3.4	3.4
	友人・知人	7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	26.9	26.9	3.8	7.7	3.8	15.4	3.8	3.8	0.0	0.0
	ボランティア	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	22	2.9	4.3	1.4	2.9	7.2	11.6	14.5	8.7	14.5	2.9	8.7	2.9	7.2	4.3	6.0

本人へどのような介護を行っているかについて主な介護者との関係別で見ると、サービス利用者・未利用者とも、「食事の用意の援助」「外出、通院するときの介助」「掃除や収納の援助」が、高い割合を占めている。(図21-3)

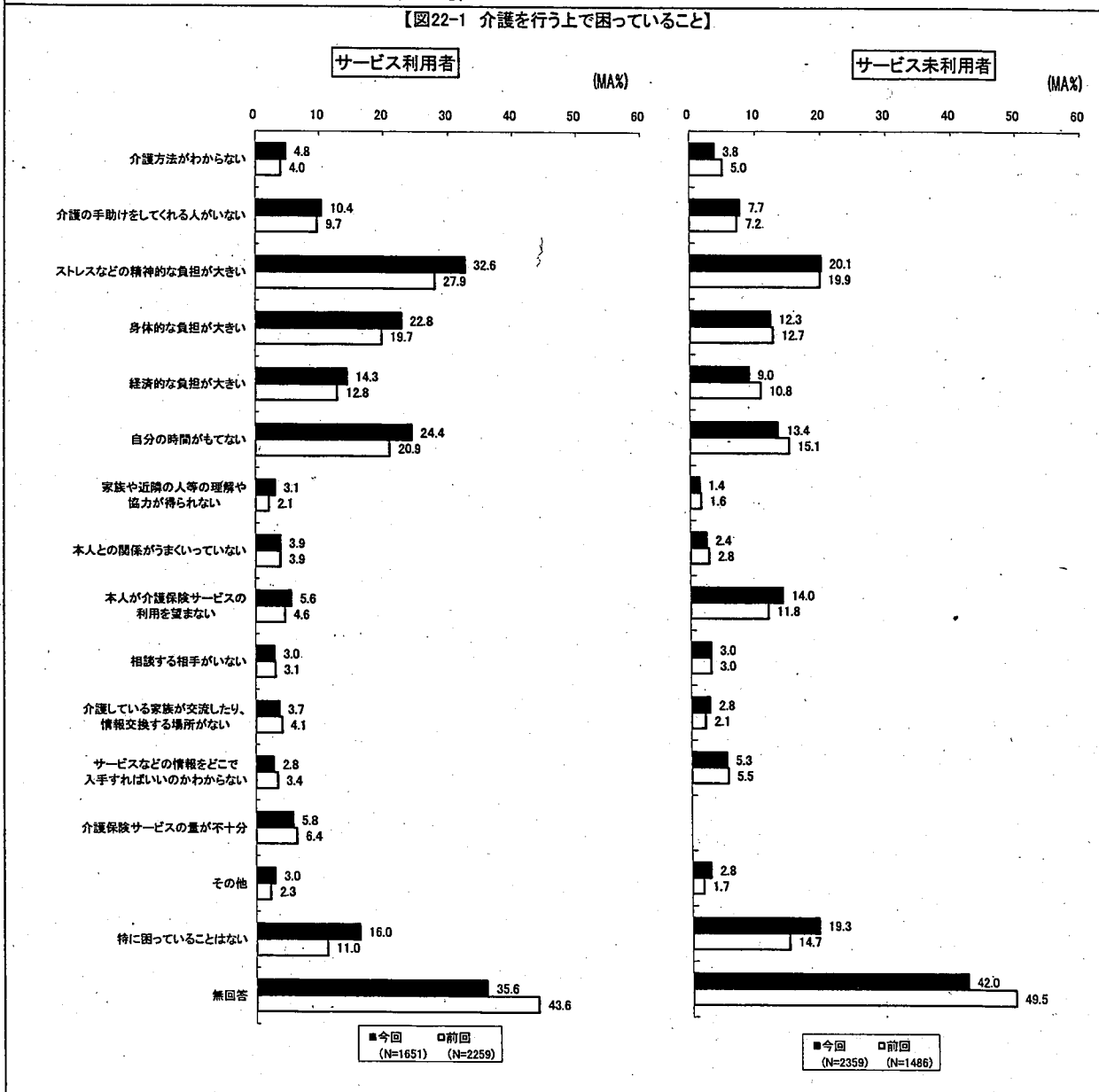
【図21-4 本人の認知度別 本人への介護内容】

		N	徘徊などの行動障害に対する見守り	記憶障害への対応	食事をしたことを忘れるなどの対応	幻覚、妄想、うつなどの精神症状への対応	昼夜の逆転など見当識障害※への対応	金銭管理の援助	掃除や収納の援助	食事の用意の援助	服薬の援助	入浴などの介助	着替え、食事の介助	外出、通院する時の介助	おむつの交換などの排泄の介助	整髪、歯磨き、爪切り、洗面などの介助	その他	無回答
サービス利用者	全く認知症を有しない	438	0.9	0.3	0.3	0.5	8.2	14.5	17.4	8.3	8.3	8.0	17.0	3.4	7.1	2.5	3.2	
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	294	0.9	2.1	1.8	2.2	10.2	13.4	15.8	11.4	6.8	7.5	15.4	4.0	6.1	1.4	1.0	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	169	1.3	4.0	2.5	3.4	10.9	11.9	14.1	12.6	6.1	6.7	14.3	4.1	6.7	0.9	0.5	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	145	3.2	5.6	3.3	5.7	9.3	9.3	10.6	10.9	6.8	8.6	11.5	6.2	7.8	1.0	0.3	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	102	3.7	6.1	4.6	6.6	8.7	8.3	9.3	9.7	6.2	9.7	9.2	7.8	7.8	0.7	1.4	
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	19	3.0	5.3	9.0	6.8	8.3	7.5	9.0	9.0	7.5	8.3	9.0	7.5	7.5	1.5	0.8	
サービス未利用者	全く認知症を有しない	800	0.5	0.6	0.3	0.3	6.8	16.9	19.4	6.1	6.4	4.7	18.5	1.6	4.9	4.2	8.8	
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	448	0.9	2.4	1.7	1.7	10.5	14.8	17.8	10.7	6.9	5.2	16.6	1.7	5.0	1.6	2.5	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	173	1.7	4.4	3.3	2.3	12.4	12.6	15.5	13.4	6.6	4.1	14.3	2.7	5.1	1.2	0.4	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	74	2.7	5.6	3.5	5.4	8.6	8.4	12.5	12.5	8.4	6.5	11.3	4.6	7.7	1.3	1.0	
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	39	2.9	4.6	3.3	5.4	8.7	10.0	11.6	8.7	8.7	8.3	8.3	7.5	9.1	2.1	0.8	
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	26	3.4	5.0	8.4	8.4	9.2	7.6	6.7	7.6	5.9	8.4	10.1	5.0	6.7	4.2	3.4	

本人へどのような介護を行っているかについて、本人の認知度別にみるとサービス利用者・未利用者とも、認知度が低い場合は、「食事の用意の援助」「外出、通院するときの介助」が高い割合を占めているが、認知度が高くなるにつれて、本人への介護内容に割合の差がなくなる。(図21-4)

(3) 介護上の問題

問22(23) 主な介護者が、自宅での介護を行ううえで困っていることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



介護を行ううえで困っていることについては、サービス利用者・未利用者ともに「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が最も多く、次いでサービス利用者では「自分の時間がもてない」、サービス未利用者では「特に困っていることはない」となっている。前回と比べ、サービス利用者は「精神的な負担・身体的な負担・経済的な負担」が増えており、サービス未利用者は前回と同様か減っている。(図22-1)

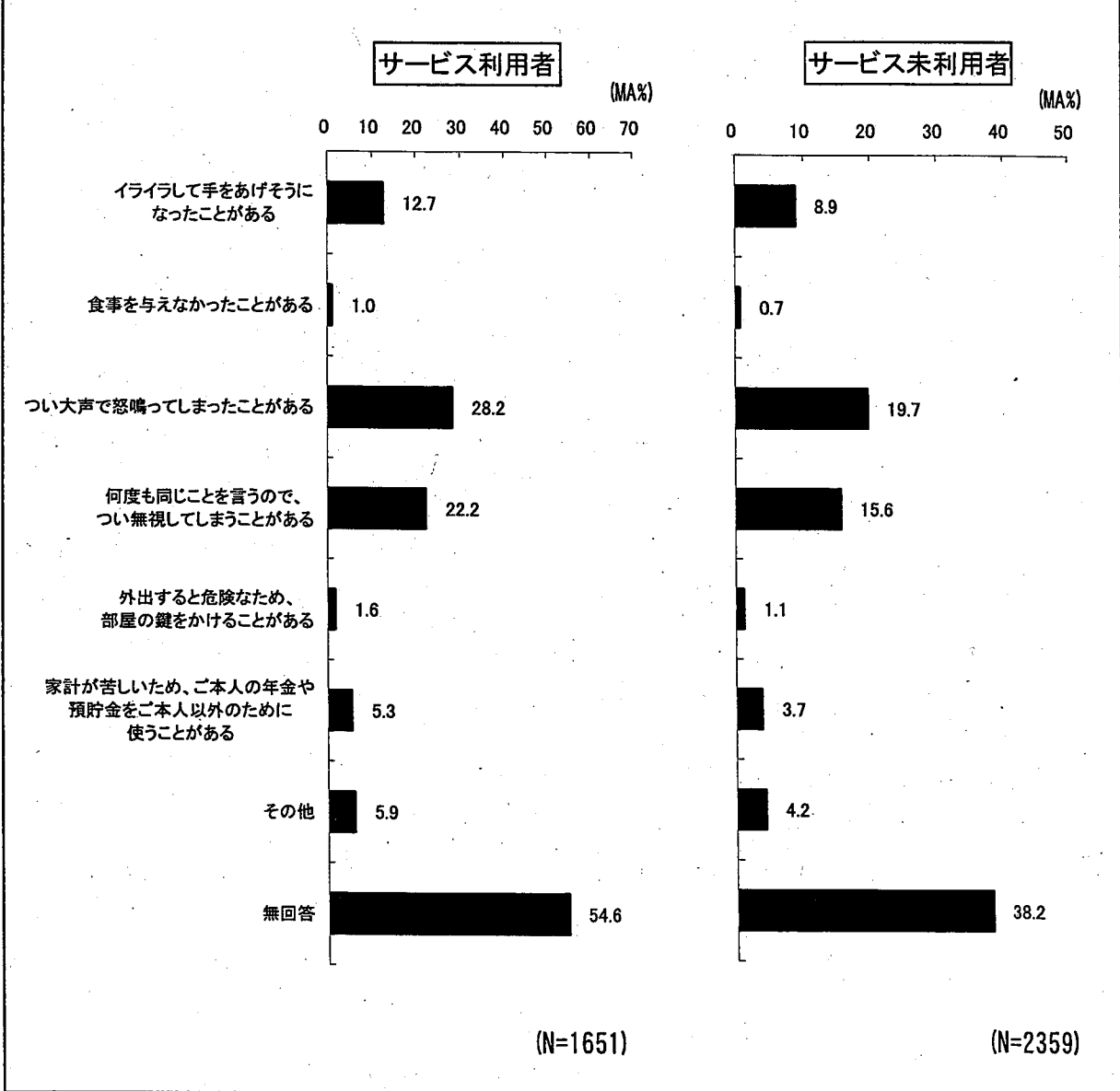
【図22-2 本人の認知度別 介護を行ううえで困っていること】

	N	(MA%)																
		介護(対応)方法がわからない	介護の手助けをしてくれる人がいない	ストレスなどの精神的な負担が大きい	身体的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	自分の時間がもてない	ご家族や近隣の人等の理解や協力が得られない	ご本人との関係がうまくいっていない	ご本人が介護保険サービスの利用を望まない	相談する相手がいない	介護しているご家族が交流したり、情報交換する場所がない	介護保険サービスの量が不十分	介護保険サービスの情報が不十分	その他	特に困っていることはない	無回答	
サービス利用者	全く認知症を有しない	438	5.0	3.5	9.0	6.9	4.3	7.1	0.7	0.6	1.8	1.0	0.9	1.3	2.7	1.6	13.1	6.3
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	294	6.5	12.6	45.2	24.5	19.7	29.3	2.4	6.8	9.9	4.4	2.7	3.7	5.1	4.1	19.7	11.2
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	169	5.9	16.6	57.4	34.3	17.2	42.0	3.0	7.1	10.1	3.0	10.7	6.5	6.5	4.1	13.6	10.7
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	145	8.3	22.8	67.6	51.7	33.8	52.4	8.3	9.7	11.0	8.3	6.9	4.8	11.7	2.8	9.7	7.6
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	102	10.8	20.6	70.6	59.8	33.3	58.8	11.8	5.9	6.9	2.0	7.8	1.0	12.7	2.9	2.0	12.7
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	19	15.8	26.3	63.2	68.4	36.8	63.2	15.8	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	15.8	10.5	0.0	21.1
サービス未利用者	全く認知症を有しない	800	3.2	7.0	15.2	12.0	8.6	10.6	0.9	1.4	11.5	2.6	1.9	5.0		2.5	40.0	21.9
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	448	6.2	12.5	35.0	16.5	14.5	21.9	2.0	4.7	27.2	4.7	4.2	9.8		4.7	21.0	11.8
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	173	8.1	15.6	51.4	24.3	19.7	27.7	4.0	7.5	38.7	9.2	9.8	12.7		4.0	10.4	6.9
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	74	12.2	20.3	63.5	43.2	17.6	41.9	4.1	6.8	36.5	9.5	8.1	10.8		5.4	4.1	9.5
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	39	12.8	17.9	53.8	38.5	25.6	43.6	5.1	5.1	15.4	0.0	10.3	5.1		10.3	5.1	15.4
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	26	3.8	19.2	38.5	30.8	15.4	34.6	7.7	3.8	30.8	0.0	11.5	7.7		7.7	7.7	38.5

介護を行ううえで困っていることを本人の認知度別でみると、サービス利用者・未利用者とも、「全く認知症を有しない」では、「特に困っていることはない」が最も多く、認知度が高くなるにつれて、「ストレスなどの精神的な負担が大きい」が占める割合が高くなる。(図22-2)

問23(24) 主な介護者が、自宅での介護を行ううえで、
次のような状態になったことがありますか。(○はいくつでも)

【図23-1 介護者の虐待の有無】



介護者の虐待の有無については、サービス利用者・未利用者ともに「つい大声で怒鳴ってしまったことがある」が最も多く、次いで「何度も同じ事を言うのでつい無視してしまうことがある」となっている。

【図23-2 介護者の性別 虐待の有無】

		N	(MA%)							
			イライラして手をあげそうになったことがある	食事を与えなかったことがある	つい大声でどなってしまったことがある	何度と同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある	ご本人が外出してうろろすると、危険なため部屋の鍵をかけることがある	家計が苦しいため、ご本人の年金や預貯金をご本人以外のために使ってしまうことがある	その他	無回答
サービス利用者	男性	378	16.9	1.6	40.5	26.2	2.1	7.4	7.4	38.6
	女性	868	16.4	1.2	35.4	29.8	2.1	6.6	8.1	41.6
サービス未利用者	男性	590	10.8	0.5	26.9	19.2	2.5	6.6	9.5	51.7
	女性	1068	8.3	0.5	24.2	22.4	0.8	4.1	11.2	50.9

虐待の有無を介護者の性別で見ると、サービス利用者・未利用者の男性、女性とも、「つい大声でどなってしまったことがある」が最も高い。また、サービス利用者の方が、未利用者よりも回答率が高くなっている。(図23-4)

【図23-3 介護者との関係別 虐待の有無】

	N	(MA%)								
		イライラして手をあげそうになったことがある	食事を与えなかったことがある	つい大声でどなってしまったことがある	何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある	ご本人が外出してうるうるすると、危険なため部屋の鍵をかけることがある	家計が苦しいため、ご本人の年金や預貯金をご本人以外のために使ってしまうことがある	その他	無回答	
サービス利用者	配偶者	450	18.0	1.3	38.2	24.0	2.7	10.2	5.6	42.2
	兄弟・姉妹	35	22.9	0.0	37.1	20.0	0.0	2.9	11.4	51.4
	子ども	587	16.5	1.2	39.7	33.0	1.9	5.8	9.9	36.3
	子どもの配偶者	107	9.3	2.8	23.4	36.4	3.7	0.9	6.5	43.0
	その他の親族	17	0.0	0.0	5.9	17.6	0.0	5.9	5.9	76.5
	友人・知人	16	6.2	0.0	12.5	18.8	0.0	0.0	18.8	56.2
	ボランティア	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	その他	12	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	41.7
サービス未利用者	配偶者	804	11.7	0.7	25.4	20.6	1.7	5.6	8.3	52.5
	兄弟・姉妹	39	12.8	0.0	28.2	15.4	0.0	2.6	25.6	46.2
	子ども	653	7.5	0.2	26.2	23.1	1.1	5.1	10.9	49.9
	子どもの配偶者	109	1.8	0.9	16.5	20.2	0.9	1.8	11.0	60.6
	その他の親族	20	0.0	0.0	25.0	15.0	5.0	5.0	25.0	35.0
	友人・知人	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	42.8
	ボランティア	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	22	4.5	0	4.5	0	0	4.5	27.3	63.6

虐待の有無介護を主な介護者との関係別で見ると、サービス利用者、サービス未利用者とも「つい大声でどなってしまったことがある」「何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある」が高い割合を占めている。
(図22-3)

【図23-4 同居の状況別 虐待の有無】

		N	(MA%)							
			イライラして手をあげそうになったことがある	食事を与えなかったことがある	つい大声でどなってしまったことがある	何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある	ご本人が外出してうるうるすると、危険なため部屋の鍵をかけることがある	家計が苦しいため、ご本人の年金や預貯金をご本人以外のために使ってしまうことがある	その他	無回答
サービス利用者	同居している	858	19.3	1.2	42.4	30.5	2.8	8.6	6.9	36.4
	同居していない	389	10.3	1.5	25.2	25.2	0.8	3.1	10.0	50.1
サービス未利用者	同居している	1258	10.3	0.6	27.7	22.1	1.4	5.5	9.7	49.8
	同居していない	378	5.0	0.3	16.4	19.0	1.6	3.4	14.6	55.0

虐待の有無を同居の状況別で見ると、サービス利用者では「同居している」で「つい大声でどなってしまったことがある」が42.4%、サービス未利用者では「同居している」で同様に「つい大声でどなってしまったことがある」が27.7%となっている。(図23-4)

【図23-5 要介護度別 虐待の有無】

		(MA%)								
N		イライラして手をあげそうになったことがある	食事を与えなかったことがある	つい大声でどなってしまったことがある	何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある	ご本人が外出してうるうるすると、危険なため部屋の鍵をかけることがある	家計が苦しいため、ご本人の年金や預貯金をご本人以外のために使ってしまうことがある	その他	無回答	
サービス利用者	要支援1	205	3.4	1.0	14.1	15.6	0.0	2.9	5.4	69.3
	要支援2	242	7.0	0.4	18.2	15.7	0.8	3.3	7.0	62.4
	要介護1	201	10.0	3.0	29.9	27.4	2.0	8.5	6.0	47.8
	要介護2	328	13.1	0.3	36.3	26.2	1.5	5.2	5.8	48.2
	要介護3	246	19.5	0.4	35.0	29.7	2.0	7.7	5.3	46.7
	要介護4	185	18.9	1.1	38.4	25.4	3.2	5.9	6.5	47.0
	要介護5	159	18.9	1.9	27.0	17.6	2.5	2.5	5.7	57.2
	わからない	13	15.4	0.0	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7	76.9
サービス未利用者	要支援1	792	3.4	0.3	12.2	10.9	0.3	2.9	6.9	72.5
	要支援2	457	6.1	0.2	17.1	15.5	0.4	3.3	10.3	61.5
	要介護1	260	10.0	1.2	33.1	34.6	1.9	2.7	10.4	41.5
	要介護2	151	15.9	0.7	34.4	29.1	2.6	7.3	6.0	44.4
	要介護3	71	14.1	0.0	35.2	22.5	2.8	4.2	11.3	42.3
	要介護4	69	17.4	0.0	42.0	18.8	5.8	10.1	4.3	46.4
	要介護5	76	15.8	0.0	23.7	9.2	3.9	9.2	9.2	55.3
	わからない	128	3.9	0.0	7.8	10.9	0.0	3.1	11.7	72.7

虐待の有無を要介護度別で見ると、サービス利用者・未利用者とも、「つい大声でどなってしまったことがある」、次いで「何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある」が高い割合を占めている。また、要介護度が高くなるにつれて、「イライラして手をあげそうになったことがある」の割合が高くなる。(図23-5)

【図23-6 本人の認知程度別 虐待の有無】

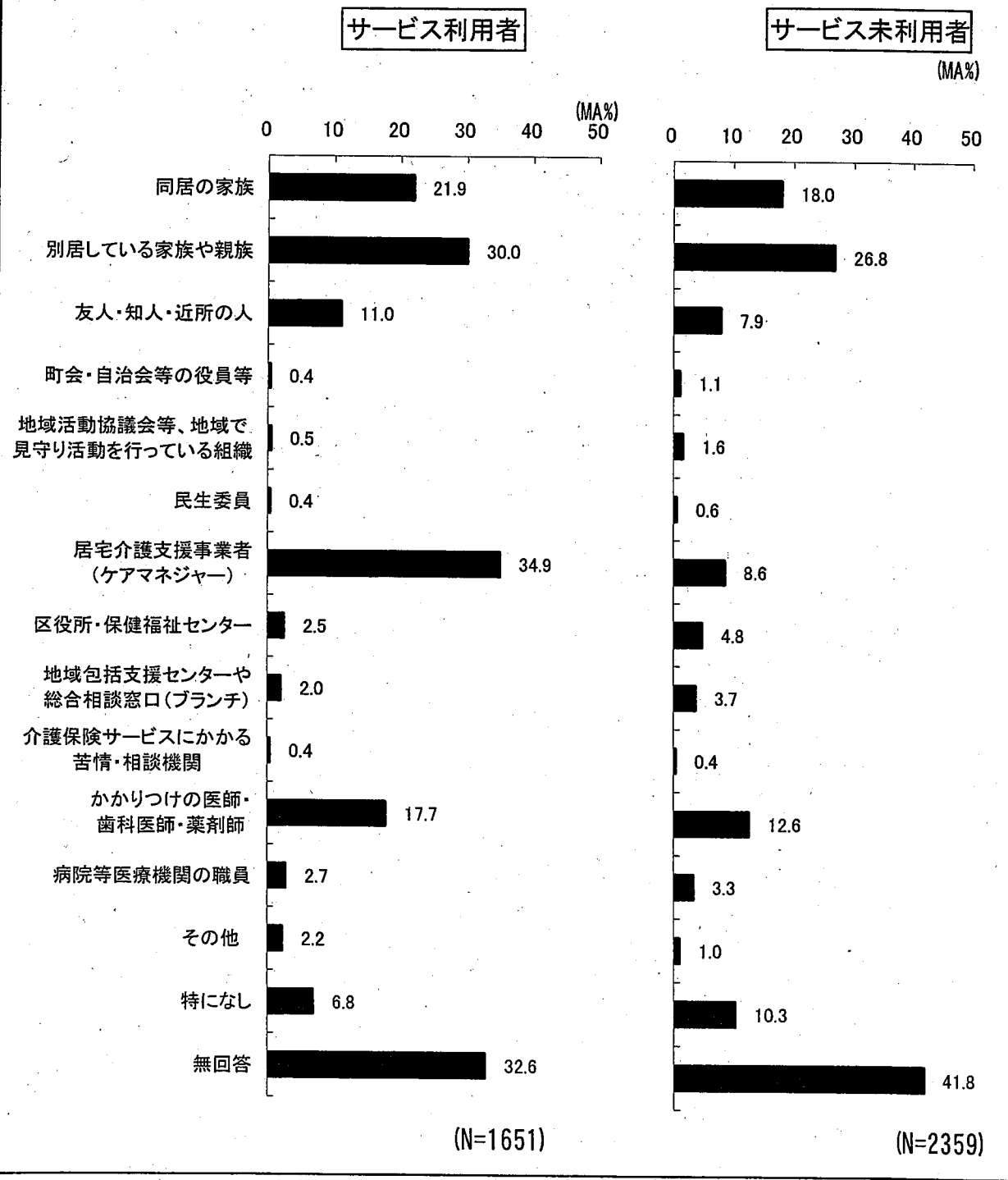
(MA%)

	N	イライラして手をあげそうになったことがある	食事を与えなかったことがある	つい大声でどなってしまったことがある	何度も同じ事を言うので、つい無視してしまうことがある	ご本人が外出してうるうるすると、危険なため部屋の鍵をかけることがある	家計が苦しいため、ご本人の年金や預貯金をご本人以外のために使ってしまうことがある	その他	無回答	
サービス利用者	全く認知症を有しない	438	5.9	0.7	22.6	12.8	0.5	4.1	10.3	57.8
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	294	13.6	1.0	38.1	33.3	0.7	8.8	7.5	33.3
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	169	21.3	1.2	52.7	43.8	1.2	8.9	4.1	24.9
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	145	36.6	4.1	52.4	51.7	6.2	13.1	9.7	15.9
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	102	34.3	2.0	60.8	39.2	9.8	6.9	6.9	22.5
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	19	47.4	0.0	52.6	47.4	5.3	0.0	10.5	31.6
サービス未利用者	全く認知症を有しない	800	4.1	0.1	11.8	9.4	0.8	2.6	14.2	65.0
	何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している	448	9.2	0.4	32.8	30.1	0.4	5.6	7.8	39.7
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	173	17.3	0.0	51.4	46.8	1.2	9.8	8.7	25.4
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	74	20.3	0.0	58.1	40.5	8.1	8.1	6.8	24.3
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	39	35.9	0.0	43.6	28.2	5.1	12.8	7.7	30.8
	妄想、興奮など著しい精神症状、あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする	26	26.9	7.7	34.6	34.6	15.4	7.7	11.5	38.5

虐待の有無を本人の認知程度別にみると、サービス利用者・未利用者とも、「つい大声でどなってしまったことがある」が高い割合を占めている。(図23-6)

問24(25) 主な介護者が、自宅での介護を行ううえで
困った時はどちらに相談していますか。(〇はいくつでも)

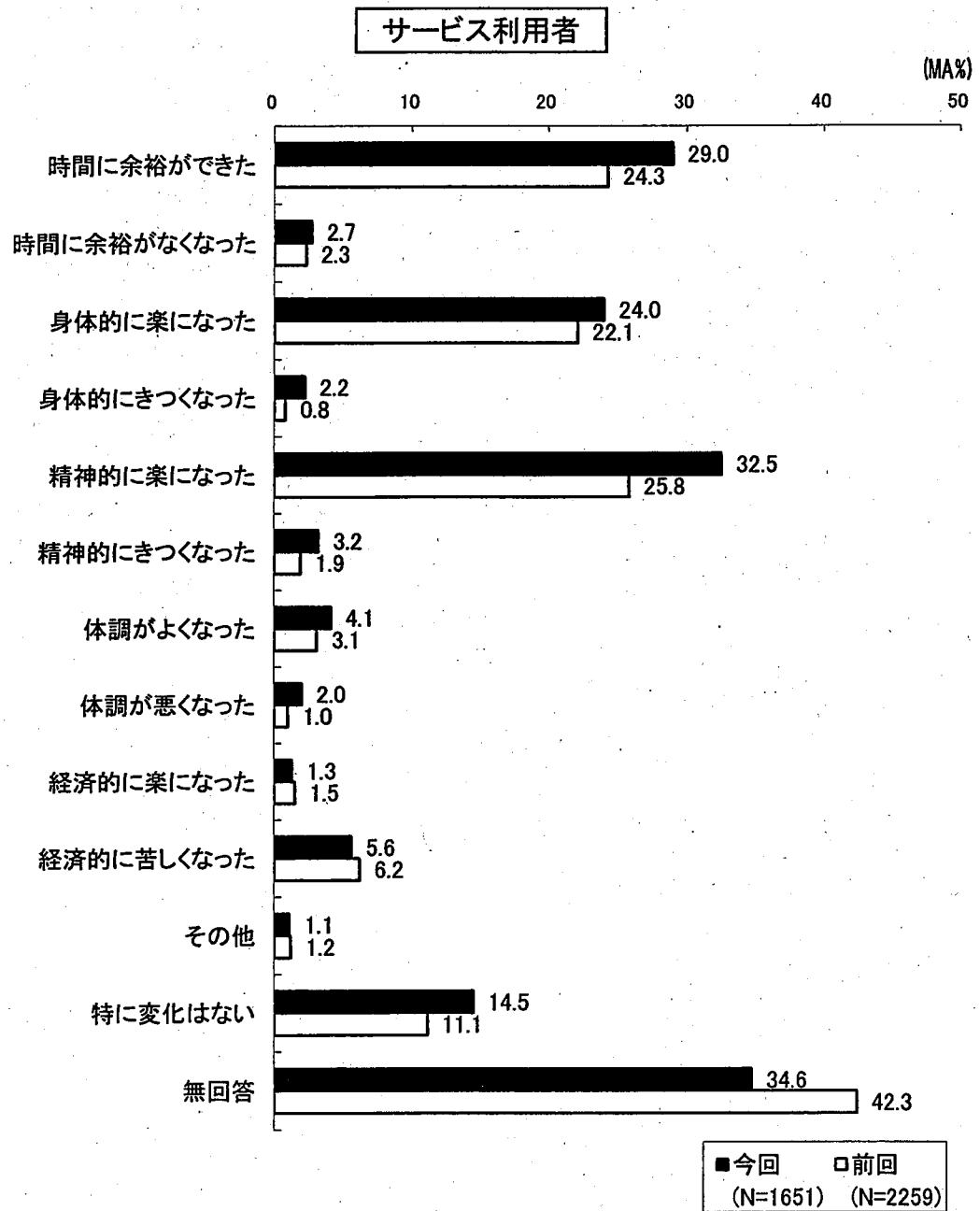
【図24-1 介護を行ったうえで困った時の相談先】



介護で困った時の相談先については、サービス利用者は「居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)」が34.9%と最も多く、次いで「別居している家族や親族」が30.0%、「同居の家族」が21.9%となっている。サービス未利用者は「別居している家族や親族」が26.8%と最も多く、次いで「同居の家族」が18.0%、「かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師」が12.6%となっている。(図24-

問25 ご本人が介護保険サービスを利用することによって、
 主な介護者にどのような変化がありましたか。(〇はいくつでも)
 【※サービス利用者のみ】

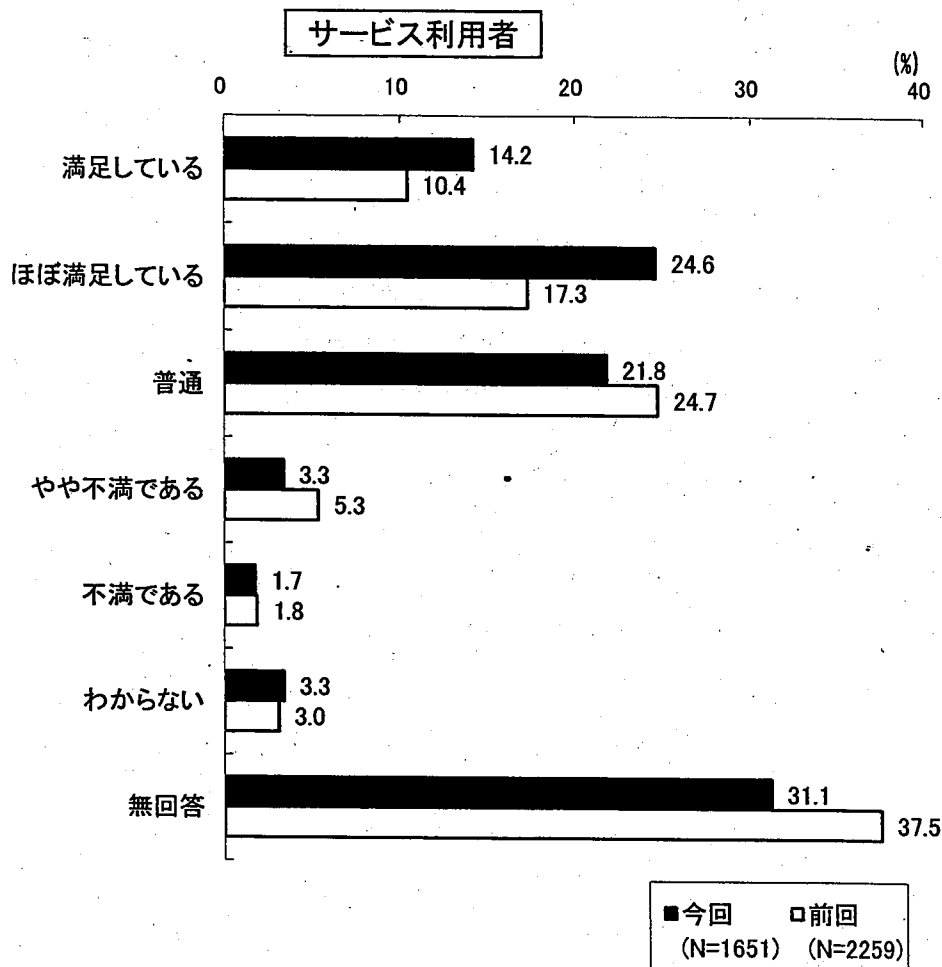
【図25 介護保険サービスを利用することによる介護者の変化(比較)】



介護保険サービスを利用することによる介護の変化については、「精神的に楽になった」が32.5%と最も多く、次いで「時間に余裕ができた」が29.0%、「身体的に楽になった」が24.0%となっている。前回に比べ、「時間に余裕ができた」「身体的に楽になった」「精神的に楽になった」「特に変化がない」が増えている。(図25)

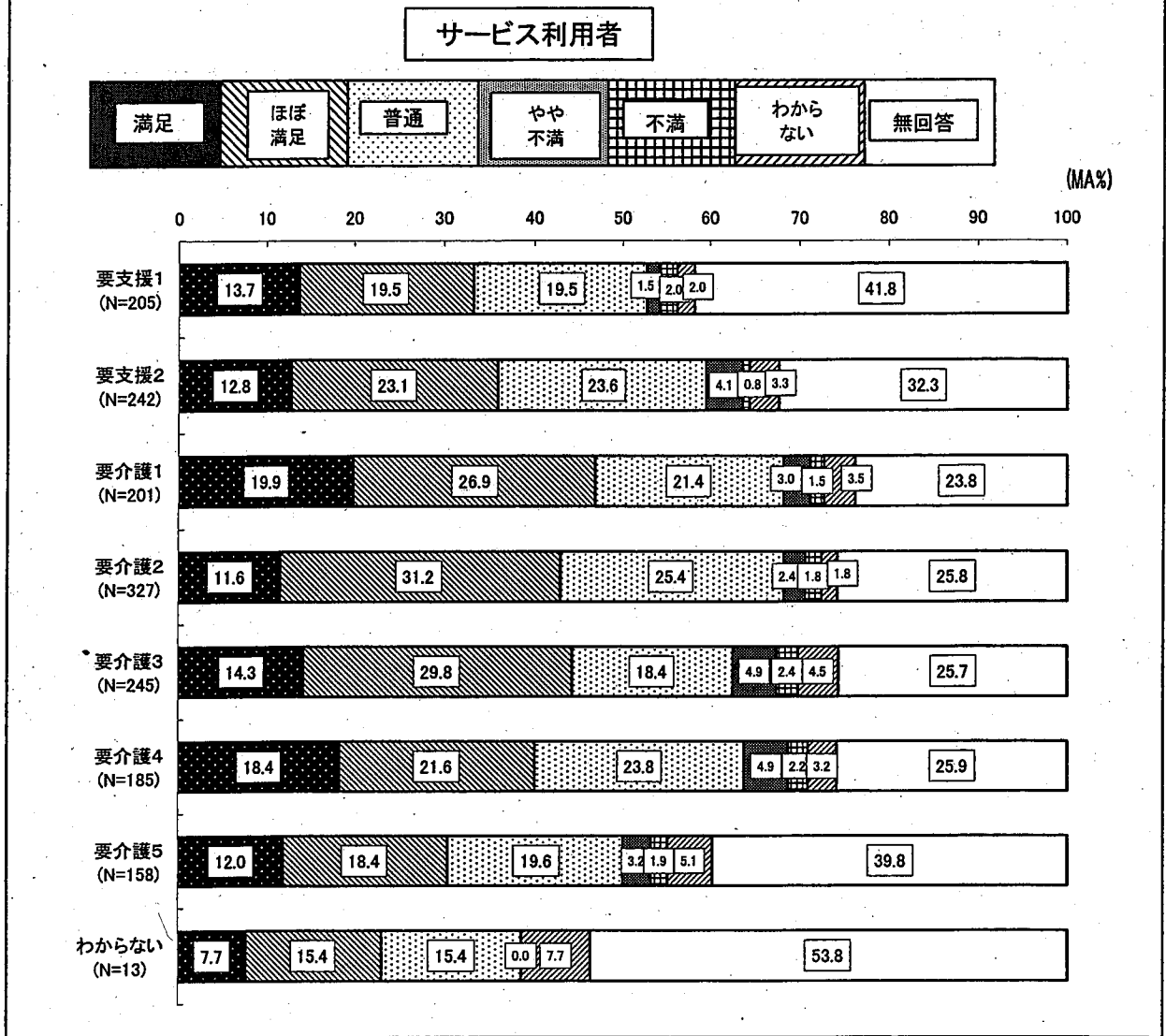
問26 ご本人が利用している介護保険サービスについて、
 主な介護者の満足度をおたずねします。(〇はひとつ)
 【※サービス利用者のみ】

【図26-1 介護保険サービスについての介護者の満足度(比較)】



介護保険サービスについての介護者の満足度は、「ほぼ満足している」が24.6%が最も多くなっている。次いで、「普通」が21.8%、「満足している」が14.2%となり、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた割合は4割近くになっている。前回と比べ、「ほぼ満足している」が7.3ポイント増えている。(図26-1)

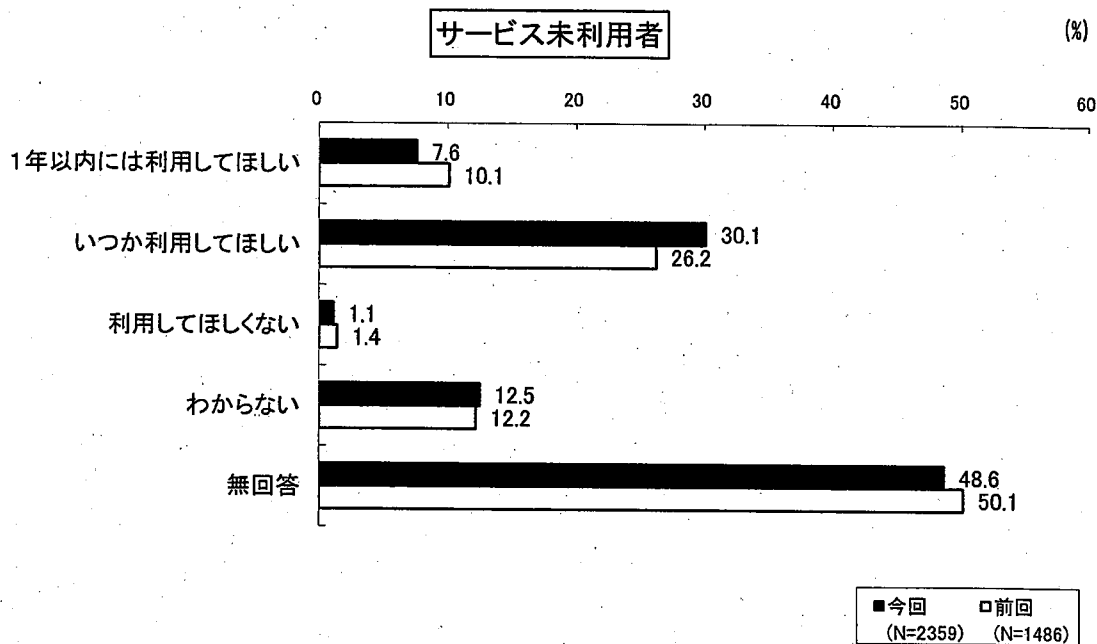
【図26-2 要介護度別 介護保険サービスについての介護者の満足度】



介護保険サービスについての介護者の満足度を要介護度別で見ると「満足している」「ほぼ満足している」と回答の方が3割から5割を占めている。(図26-2)

問(26) 今後、ご本人に介護保険サービスの利用してほしいですか。(○はひとつ)
 【※サービス未利用者のみ】

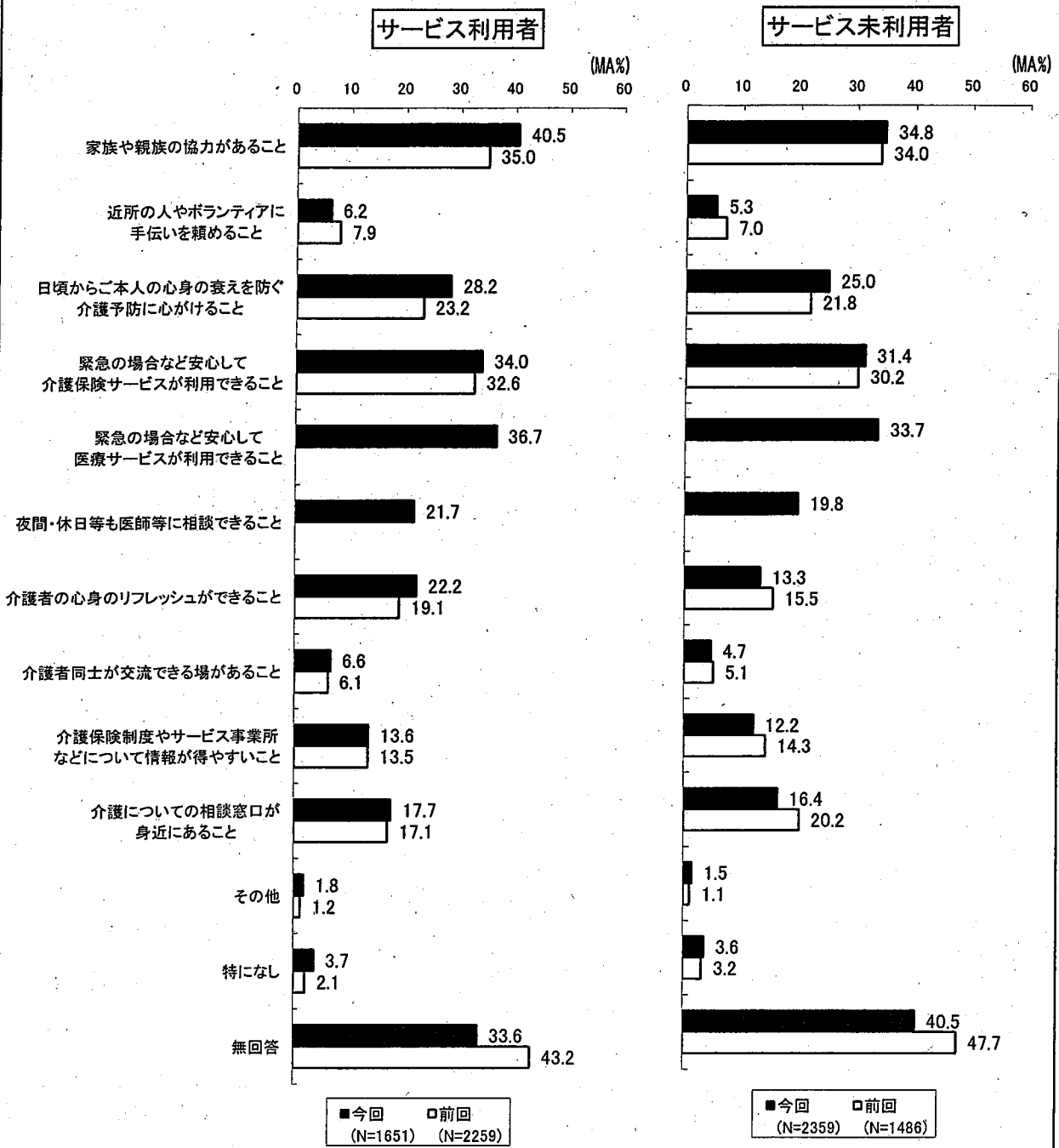
【図26-2 本人に介護保険サービスを利用してほしいか(比較)】



サービス未利用者の、本人に介護保険サービスを利用してほしいかについては、「いつか利用してほしい」が30.1%と最も多くなっており、「1年以内には利用してほしい」の7.6%と合わせて、37.7%となっている。前回に比べ、「1年以内には利用してほしい」が2.5ポイント減っているが、「いつか利用してほしい」が3.9ポイント増えている。(図26-2)

問27 主な介護者にとって、自宅での介護を続けるために必要なことは何ですか。(〇はいくつでも)

【図27-1 在宅介護を続けるために必要なことは何か】



在宅介護を続けるために必要なことについては、サービス利用者・未利用者ともに「家族や親族の協力があること」が最も多く、次いで「緊急の場合など、安心して医療サービスが利用できること」となっている。(図27-1)